

Y23b 全国同時七夕講演会の実施とその反響

前原裕之、柴田一成、西田圭佑(京都大学)

日本天文学会と天文教育普及研究会では2009年に世界天文年のイベントの1つとして、7月7日の七夕の日を中心とする前後1週間程度の期間に、全国各地で天文や宇宙科学に関連する講演会を開催する試みを行なった。多くの方々の協力により、全国36都道府県の97講演会場で開催され、参加者総数は65会場集計で4600人にのぼった。参加者を対象に、各講演会の主催者の協力により実施されたアンケートでは、この種の講演会を今後も継続してほしいとの要望が多数寄せられたため、2010年、2011年にも全国同時七夕講演会を実施した。

2011年も tennet や天文教育普及研究会のメーリングリスト等で講演会の企画に協力していただける方々を募集し、最終的に84会場でのべ91の講演会や観望会が開催された。参加者総数は会場から報告のあった30会場分で約2500名にのぼった。2011年の七夕講演会では、東日本大震災の被災地の学校などでの出前授業や、旧暦の七夕の時期に合わせたイベントなども行なわれた。本講演では2009～2011年の3年間の七夕講演会の概略や、参加者を対象にしたアンケートの結果からわかる七夕講演会への反響や課題点について報告する。